



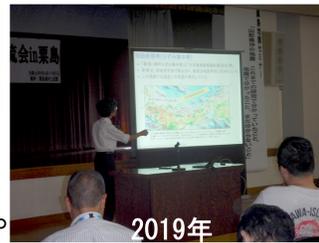
# 地震被災地住民の疑問に答える金森基金の活動

## 「分かっていたこと、分かったこと、分からないこと」

2008年に基金造成されて始まった社会活動基金(金森基金)の事業は、2019年度までに計11回、4つの地震の被災地で行われ、大きな地震で揺すられた人たち750人以上の疑問に答えてきました。1回目から変えていないテーマは、地震の前から分かっていたこと、この地震が起きたことで分かったこと、さらにまだ研究しないと分からない謎があることを伝えること。報道などではなかなか伝わらない地震学の等身大の実力をもとに、分かっている限りのことを伝えるという場です。学会組織としては、大会企画、災害調査及び普及行事の3委員会の共管で事業の実施を決めています。

## 2011年東北地方太平洋沖地震

- 2014年7月12日(土)宮古市(参加者20人)、13日(日)大船渡市(参加者30人)、三陸ジオパークガイド研修会「東北地方太平洋沖地震—分かっていたこと、分かったこと、分からないこと」(地震学会、三陸ジオパーク推進協議会共催)、講師:松澤暢氏(東北大)、質問コーナー:加藤照之会長(当時)、山岡副会長(当時)
- 2015年10月3日気仙沼市(参加者22人)、枠組みは同上。講師:松澤氏、質問コーナー:加藤会長(当時)、下山利浩氏(仙台管区気象台)。親子向けジオ教室講師・実験:久利美和氏(東北大)、篠原憲一氏(こどもサマースクール運営委員)、相原延光氏(同)



## 防災推進国民大会(ぼうさいこくたい)

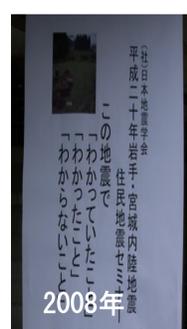
- 2017年10月27日仙台市(参加者約100人)、「地震研究最前線」。講師:松澤氏、山岡会長、青井真防災科研地震津波火山ネットワークセンターセンター長
- 2018年10月13日東京ビッグサイト(参加者約60人)、「首都直下地震 何が分かって、何が分からないのか。皆さんの疑問にトコトコお答えします」、講師:平田直氏(東大地震研)、山岡会長、青木元氏(気象庁)

## 2016年熊本地震

- 2016年8月17日:阿蘇市(参加者約150人)、「この地震で『わかっていたこと』、『わかったこと』、『わからないこと』=地震の専門家が、分かる限り皆さんの疑問に答えます」(地震学会、活断層学会、阿蘇ジオパーク共催)  
講師:清水洋氏(九大)、山岡耕春会長、熊原康博氏(広島大・日本活断層学会理事)、大倉敬宏氏(京大火山研究センター、阿蘇ジオパーク)、疑問・質問コーナー:池辺伸一郎氏(阿蘇火山博、阿蘇ジオパーク)、横山博文氏(福岡管区気象台)、親子地震教室:中島健氏(龍谷大学瀬田こどもサマースクール運営委員)、前田哲良氏(都立南平高校、同)、吉川美由紀氏(桜島・錦江湾ジオパーク、JGN)
- 2017年8月10日:益城町(参加者約30人)。地震火山こどもサマースクールの子供発表の前に実施。  
講師:清水洋氏(九大)、山岡耕春会長、熊原康博氏(広島大)、岩田知孝氏(京大防災研)、疑問・質問コーナー:大倉敬宏氏(京大火山研究センター)、松田博貴氏(熊本大)

## 2008年岩手・宮城内陸地震

- 2008年7月26日(土)栗原市(参加者約150人)、27日(日)一関市(同約120人)「この地震で『わかっていたこと』、『わかったこと』、『わからないこと』=地震の専門家が分かる限り疑問に答えます」(地震学会主催)、講師:武村雅之氏(鹿島建設小堀研)、佐藤比呂志氏(東大地震研)、松澤氏、疑問・質問コーナー:平原和朗会長(当時)、島崎邦彦前会長(当時)、西村太志氏(東北大)
- 2015年7月18日(土)栗原市(同約100人)、栗駒山麓ジオパーク講演会「研究から分かってきたこと・まだ分からないこと」(地震学会、栗駒山麓ジオパーク推進協議会共催)、講師:松澤氏、質問コーナー:山岡副会長(当時)、下山利浩氏(仙台管区気象台)



## 2019年山形県沖の地震

○2019年9月4日(水)新潟県粟島村(参加者120人)、第12回三島交流会in栗島「栗島地震セミナー 山形県沖の地震—これまでの研究で分かっていたこと、地震で分かったこと、分からないこと」(栗島浦村公民館)、講師:篠原雅尚氏(東大地震研)、石辺岳男氏(予知振興会)

2018年度から始めた被災地域からの初の公募。地震から1カ月余り後に、佐渡島と山形県の飛島とで12年続いている三島交流会のプログラムとして、地震セミナーを実施したいとの申し込み。決まった日付だったが、日本海地震・津波調査プロジェクトの代表者でひずみ集中帯のころから栗島とも縁があった篠原氏と石辺氏の講演と、短い時間だが質疑も行うことができた。

## 社会活動基金(金森基金)とは

日本地震学会の金森博雄名誉会員が、長年の地震学の研究によって2007年に受賞された京都賞の賞金の一部を、地震災害後の被災地・被災者のために社会活動を行う資金に充当する目的で日本地震学会に寄付したことをきっかけに、2008年1月に設けられました。2019年3月末現在の基金残高は、4,222,002円です。

2018年3月の理事会で、「社会活動基金運用に関する規程」を改訂、上記の公募化のほか、寄付者の金森氏も快諾を得て、学会主催の「想定被災地」の社会貢献事業にも活用できるとし、内閣府のぼうさいこくたいに出展しています。

- ・基金に該当する事業
- (1) 地震災害の被災地で、地元の住民向けに行うセミナーや説明会などの開設準備や実施。
- (2) 地震災害の被災地に対して地震学が貢献できる社会活動のあり方に関するシンポジウムなどの実施。
- (3) 全国各地で想定される地震災害の被災後に、住民らに解説を行うために必要となる地方単位での地震活動を分かりやすく説明できる資料の作成。
- (4) その他、地震学会が地震災害の被災地だけでなく、地震で被災が想定される地域住民に対して貢献できる社会活動。

(社会活動基金運用に関する規程から、下線は2018年3月改訂)